

呉看護学校の定員減の経緯と今後の課題

下瀬 省二[†]第77回国立病院総合医学会
2023年10月21日 於 広島

IRYO Vol. 78 No. 6 (388-392) 2024

要旨

呉看護学校は、昭和38（1963）年に高等看護学院（28名）として開校し、平成6（1994）年に国立療養所賀茂病院附属看護学校との統合により定員80名の大型校となった。近年の応募者数の減少により、令和5年4月より定員40名に削減となった。定員減になった経緯と看護師養成所の今後の課題について述べる。

呉看護学校は、令和3年度の「指標と基準」による判断では定員削減の対象外であったが、入学者の学力低下は質の低下を招くと判断し、定員削減に踏み切った。看護系2大学と大学誘致を協議したが、建物に投資が必要なため合意しなかった。令和5年度より40名定員となり新たなスタートを切ったが、応募者数はさらに減少した。

新しい広報活動として、バスや市内電車に広告を掲載するなどの試みを行った。令和6年度からの在校生減による実習の空き枠に大学からの実習を早急に取り込まなければならない。18歳人口の減少、看護系大学との競合などきわめて厳しい状況であるが、奨学金制度のさらなる活用やSNSを利用した広報活動などにより応募者数の増加を図ることで、呉看護学校を存続させなければならない。

全国の看護師は全体としては増えているものの、病院勤務の希望者が微増にとどまっているため、病院の看護師不足はより深刻なものになっている。地域によっては、看護師不足がより顕著で、近隣に大学がないなど確保がきわめて難しい状況がある。国立病院機構附属看護学校がすべての地域に必要なというわけではないが、看護師確保がきわめて難しい地域においては学校の存続は死活問題となっている。

キーワード 看護学校，定員減，看護師確保

はじめに

呉看護学校は、昭和38（1963）年4月1日、高等看護学院（28名）として開校した。中国地区管内で

は、浜田、岡山、岩国に次いで4番目の開校であった。平成6（1994）年4月1日に国立療養所賀茂病院附属看護学校を統合し、定員80名の大型校となった。平成16年には、東広島・福山医療センター附属

国立病院機構呉医療センター附属呉看護学校 学校長 †医師
著者連絡先：下瀬省二 国立病院機構呉医療センター附属呉看護学校 学校長
〒737-0023 広島県呉市青山町3-1
e-mail: shimose0426@icloud.com
(2024年3月25日受付 2024年4月19日受理)

The Background of the Decrease in Enrollment Capacity and Future Challenge at Kure Nursing School
Shoji Shimose Kure Nursing School, Affiliated with NHO Kure Medical Center
(Received Mar. 25, 2024, Accepted Apr. 19, 2024)

Key Words : nursing school, decrease in enrollment capacity, nurse recruitment

表1 6つの指標と基準

基準	評価項目等	10点	8点	6点	4点
1	応募者数 (H28年度比較)	0～20%減少 未滿	20%以上減少	30%以上減少	40%以上減少
2	入学者充足率 過去5年間	100%以上	100%未滿 1回	100%未滿 2回	100%未滿 3回
3	国家試験合格率 過去5年間	NHO 平均以上 NHO 平均以下 全国平均以上は－1点	全国平均以下 1回	全国平均以下 2回	全国平均以下 3回
4	卒業率 過去5年間	90%以上	90%未滿 1回	90%未滿 2回	90%未滿 3回
5	就職率 過去5年間 NHO 就職率70%以上 または、県内就職率が NHO 就職率を上回る	基準内	基準以下 1回	基準以下 2回	基準以下 3回
6	母体病院の経営 前年度	経常収支黒字	経常収支赤字	減価償却前 赤字	

看護学校の閉校により、広島県唯一の機構附属看護学校となった。令和5年4月より定員40名になった経緯と看護師養成所の今後の課題について述べる。

附属養成所を取り巻く状況と 国立病院機構（NHO）の方向性

「今後の看護師養成・育成の在り方に関する検討会（2016年3月29日）」では、優秀な学生の確保と機構就職率70%を目標とすること、地域における附属養成所の役割の変化、大学志向による確保困難、大学創設の要望などを鑑みながら大学誘致や定員の減少などを踏まえた在り方を個別に検討することが報告された。さらに、「附属養成所の運営方針に係る学校長説明会（2021年9月16日）」では、「地域の人材育成」から「NHOのための看護師養成」とミッションが変化し、看護系大学数が乱立することで学生の量的・質的確保が困難となり、NHO 病院の採用者数減少により附属養成所の学生がNHO 病院に就職できないといった問題も発生していると報告された¹⁾。

NHO の方向性として、附属養成所における看護師養成にこだわることなく、多様な人材確保と育成の観点に力点を置き、他設置主体の看護師養成と連携を強化、NHO 養成所としての看護師養成は徐々に縮小、多様な看護師確保と採用後の人材育成が掲げられた。すなわち、大学からの実習を積極的に受け入れることで、大学からの看護師確保を目指すこ

とが示された。さらに、「入学応募者数」「入学者充足率」「国家試験合格率」「卒業率」「NHO・地域への就職率」「母体病院の経営」からなる6つの「指標と基準」で学校運営状況を評価することになった（表1）。これは、「努力目標」ではなく、学校の運営状況を明確に示すもので、「指標と基準」に基づいて評価し、方針を決断していただく必要があると付記されている。

呉看護学校の定員減の経緯

国立医療機構呉医療センター附属呉看護学校の「指標と基準」による評価では、令和2年度は、応募者数・入学者充足率・就職率・母体病院の経営の4つの項目が10点満点、国家試験合格率も9点で、卒業率は4点と低かったものの、定員削減の対象ではなかった（図1）。令和3年度は、応募者数と入学者充足率が8点とやや低下したが、卒業率が6点と少し改善した。応募者数は、平成30年度の227名から徐々に減少し、令和4年度には136名まで減少した（図2）。入学者数は、令和2年度までは定員を確保していたが、令和3年度77名、令和4年度62名と2年連続で定員割れとなった。また、一般入試の受験者数は、平成30年度が153名であったが、令和4年度には70名にまで減少し、定員40名が始まった令和5年度は49名まで減少した。

合格ラインを下げて入学者数を確保したことにより、授業についていけない学生の増加を招いたこと

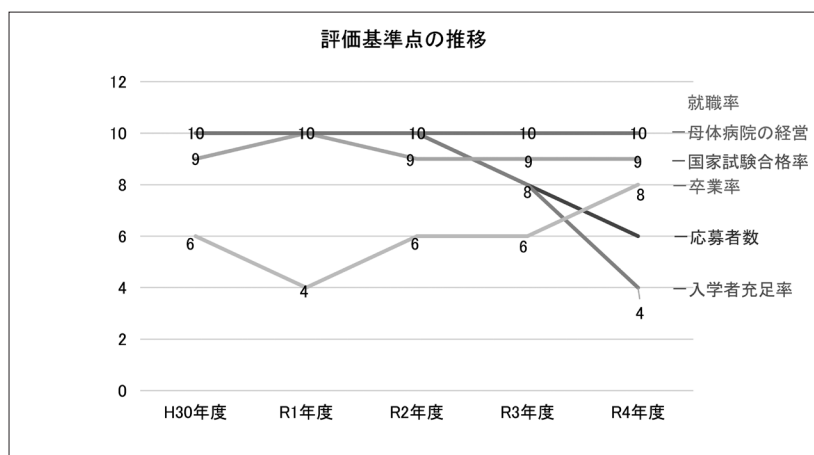


図1 呉看護学校の指標と基準

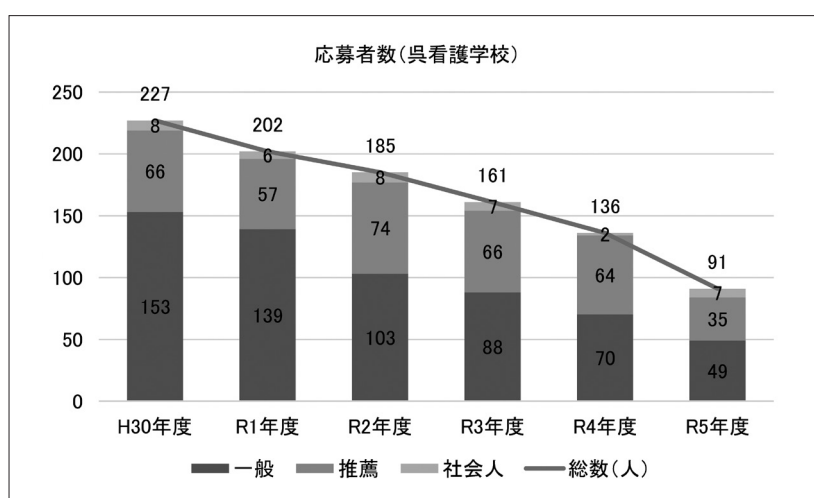


図2 呉看護学校の応募者数

が示唆された。したがって、少数精鋭で学力の向上を図ることを目指し、令和3年4月に定員減へと方向転換した。将来的に看護学校が存続できない場合も見据え、看護系大学の2大学と大学誘致について協議した。実習施設としての評価は高いものの、古くなった校舎と学生宿舎の建て替えが必要なため資金的に折り合いがつかなかった。

呉看護学校の学生確保対策

呉看護学校の学生確保対策として、高校訪問、業者が提供する進路ガイダンスへの参加、年4回のオープンスクール、夏季の在校生の高校訪問などを行ってきた。強化した取り組みとして、看護学校公用車2台へのマグネット式学校名の貼付、特別推薦校教諭を対象とする学校説明会で学校とNHOの説明および在校生との交流、学校ホームページへの各行事や実習、社会人入学生・卒業生の声などの記事

の掲載回数増、市内2カ所の図書館とハローワークへの募集要項の配架などを行った。さらに、新たな試みとして、広島市内のバス・電車および広島・呉間の高速バスへの車両ラッピングを実施した(図3)。

呉医療センターの看護師確保の観点からみた呉看護学校の役割

呉医療センターの看護師採用者数は、平均68.2名(平成30年度～令和5年度)である。そのうち、呉看護学校の卒業生は平均41.5名で、採用者の約61%を占めている。呉看護学校の卒業生は平均78.0名であり、その約53%が呉医療センターへ就職している(図4)。卒業生が40名となる令和7年度には、卒業生の53%に当たる21名が呉医療センターに就職する計算となり、残りの47名は学外から確保しなければならないことになる。学外からの入職者は平均26.7



図3 車両ラッピング（広島・呉間高速バス，広島市内電車）

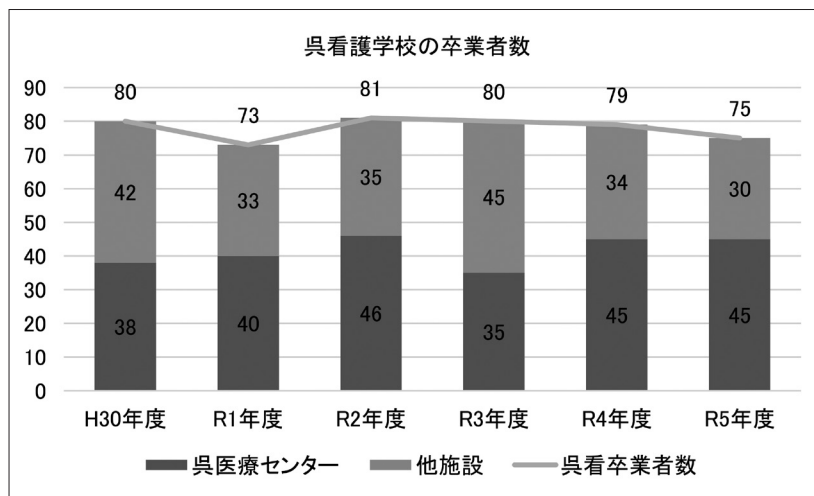


図4 呉看護学校の卒業者数と呉医療センターへの就職者数

名であり、看護師確保は、きわめて厳しい状況となる。令和6年度に在校生が減ることで生じる実習の空き枠に、大学からの実習を速やかに受け入れ、入職者を確保しなければならない。

18歳人口と看護学生の動向

18歳人口は、2020年度を100%として2033年度には全国平均で88.9%まで減少する見込みである²⁾。地域別には、九州・沖縄94.4%、関東93.8%、中国88.3%、近畿85.9%、中部85.4%、四国83.6%、北海

道82.2%、東北79.5%と差があり、地域によっては学生の確保はきわめて厳しい状況となることが想定される。

高校卒業後に看護師を目指す場合、4年制大学か養成期間3年以上の養成所・短大が選択肢となる。令和4年4月時点での入学者数は、4年制大学（303校）26,517人、養成期間3年以上の養成所・短大（557校）26,475人であり、4年制大学が養成所・短大を上回っている。2021年の学校長説明会での資料によると、看護系大学では、入学者数は平成20年から約2.4倍に増加し、入学者定員は充足、卒業率は他課

程よりも高く推移している。3年課程養成所(大学・短大除く)では、入学者定員は充足せず、卒業率は90%前後と看護系大学よりも低い状況である。NHO附属養成所では、入学者定員は3年間充足せず、卒業率は過去5年間90%を下回り、3年課程養成所の平均よりも低く推移している。大学志向と若年人口の減少などにより、さらに学生確保は困難となり、学校経営の先行きもきわめて厳しい状況である。

看護職員の就業状況

全国の看護職員は漸増し、2020年時点で173.4万人である。看護職員の就業場所は病院・診療所が多いが、推移をみると、訪問看護ステーションや介護保険施設などの増加割合が高い。病院では微増にとどまっており、病院への入職者が少ない傾向がある。

人口10万人あたりの就業者数は、全国平均が1,369人である。宮城、茨木、埼玉、千葉、東京、神奈川、静岡、愛知、滋賀、大阪、奈良で少なく、神奈川が最小で930人である。一方、中国四国・九州では全県で全国平均を上回っており、西高東低となっている。2025年の需要と供給の予測では、秋田、群馬、富山を除く近畿から東の地域では、供給不足の状況で、とくに埼玉、千葉、東京、神奈川、京都、大阪、兵庫、奈良では顕著な供給不足が予想されている。一方、中国四国や九州では概ね供給が上回っているが、鳥取、広島、徳島、愛媛、高知、大分で若干の供給不足であり、福岡、沖縄では相当な供給不足が予想されている²⁾。

病院への勤務を希望しない看護師が増えているため、看護師の確保は、NHOに限らず、病院にとってとくに厳しい状況となっている。就業者数がもともと少ない地域や、供給不足が予想されている地域では、今後、さらに厳しい状況になっていくものと思われる。18歳人口の減少、生産年齢人口の減少が顕著となっており、病院経営のためには学生の確保と看護師確保が喫緊の課題である。

おわりに

呉看護学校は、令和3年度の「指標と基準」によ

る判断では定員削減の対象外であったが、入学者の学力低下は質の低下を招くと判断し、定員削減に踏み切った。定員減となった令和5年度にはさらに応募者数の減少を加速した感があり、定員削減の難しさを実感した。新しい広報活動として、バスや市内電車に広告を掲載し、これを見たという受験生もいた。

18歳人口の減少、看護系大学との競合などきわめて厳しい状況であるが、奨学金制度のさらなる活用やSNSを利用した広報活動などにより応募者数の増加を図ることで、呉看護学校を存続させなければならない。

看護師は全体としては増えているものの、病院勤務の希望者が微増にとどまっているため、病院の看護師不足はより深刻なものになっている。地域によっては、看護師不足がより顕著で、近隣に大学がないなど確保がきわめて難しい状況がある。NHO附属看護学校がすべての地域に必要というわけではないが、看護師確保がきわめて難しい地域においては学校の存続は死活問題となっている。

〈本論文は第77回国立病院総合医学会シンポジウム「地域における国立病院附属看護学校の役割と意義、今後の展望」において「呉看護学校の定員減の経緯と今後の課題」として発表した内容に加筆したものである。〉

利益相反自己申告：申告すべきものなし

[文献]

- 1) 都道府県別18歳人口予測推移 [2021最新版] 文部科学省「学校基本調査」に見る募集ターゲットの地域別減少予測 | blog 教育企画センター. (Accessed Feb. 27, 2024, at <https://www.pcpe.jp/blog/20220607-204>)
- 2) 第1回看護師等確保基本指針検討部会。看護師等(看護職員)の確保を巡る状況と看護師等確保基本指針改定の方針性(案). (Accessed Feb. 27, 2024, at <https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001101179.pdf>)